

# 人と自然が行き交う

## 山間の交流ステーション

◆平成19年度静岡県都市景観賞最優秀賞(県知事賞)受賞

### 大井川鐵道・田野口駅

(榛原郡川根本町)



大井川鐵道の田野口駅。電車(各駅停車)を使って向かえば、旅情はさらに高まる。

奥大井の山並みに溶け込む木造の駅舎。その傍らを蒸気機関車が汽笛を鳴らしながら走り去ってゆく。昭和初期の光景が色濃く残る大井川鐵道の田野口駅周辺は、タイムスリップゾーンだ。昭和6年に開業した駅は、昭和45年に無人化されているものの、切符売り場や待合室は、昭和初期の空気感をそのまま留め、過去へ戻ってしまったような錯覚を抱かせる。しかし、そこに寂寥感はない。なぜなら駅舎周辺にいっきと暮らす町民の気配を感じるからだ。駅を取り囲む植え込みにには地域の人たちが育てた花が咲き誇り、駅舎自体も清掃や管理の手が行き届いている。

駅の植栽や清掃を行っているのは「田野口駅花の会」だ。全メンバーの11人が田野口で暮らし、日々花壇整備や地域清掃に汗を流している。そんな地域ぐるみの活動も併せて評価され、田野口駅は平成19年度静岡県都市景観賞(現静岡県

景観賞)の最優秀賞(県知事賞)に輝いた。

同会の活動で全国から注目を集めているのは、毎月定期的に行われている「大井川流域まちかど博物館」だ。メンバーが川根茶、果実、漬物、餅、菓子などの地場産品を持ち寄り、無料で観光客をもてなしている。その活動は訪れる人を癒やすだけでなく、メンバー自身の生き甲斐にもなっているという。同会の会長・鈴木恒子さんは「ここは地域全体が大家族のようで居心地がいいんです。だから毎月県外からやって来る人も大勢いますよ」と笑顔で語る。

自然や駅舎の保護だけでなく、積極的に内外の人たちと触れ合う姿勢は、まさしく交流ステーション。次世代にも語り継ぎたい牧歌的な風景は、全国に誇るべき静岡の宝と言っていだろう。

大井川鐵道・田野口駅  
静岡県榛原郡川根本町田野口



田野口駅花の会のメンバー。左から4人目が会長の鈴木恒子さん。



月例の「大井川流域まちかど博物館」は第4日曜日に開催(例外あり)。時間は9時から15時まで。



映画やテレビドラマのロケに使われることも多い田野口駅の待合室と切符売り場。



駅舎前の花壇で花の手入れをする「田野口駅花の会」のメンバー。

### ◎目次

1 静岡景観  
大井川鐵道・田野口駅

3 ◆知事鼎談

## ROAD TO 2019 世界の戦いが 静岡で

ラグビーワールドカップ2019  
日本大会に向けて

静岡県ラグビーフットボール協会名誉会長  
松井純氏

ヤマハ発動機ジュビロ監督  
清宮克幸氏 鼎談

7 ふじのくにの地域外交  
ブラジル、アルゼンチン編

9 次代を拓く  
株式会社平垣製作所

10 ふじのくにから世界へ  
国内外の交流を深める  
静岡県立こども病院の世界戦略

11 ◆県政特集

## 世界クラスの 資源群を誇る ふじのくにに“静岡県

13 ふじのくにを直す  
三ヶ日みかん

14 旬の人  
五郎丸歩さん